

青森からお届けします！



暑さの厳しかった夏もようやく峠を越え、少し涼しい秋の気配を感じられるようになりました。今年はずっと猛暑の影響で虫の羽化が早まり、りんごに被害が出ることもあり、改めて自然から学ぶことの多さを実感しております。しばらく成長が停滞していたりんごも8月の雨のおかげに再びぐんと大きくなり今では直径8cmほどに育ち、立派な姿を見せてくれています。私たちは自然と共存しながら、試行錯誤を重ねてりんごを守り、皆さまにお届けしております。

大湯ファーム初！電気柵

今、大湯ファームでは、市の補助事業を活用し、新たに「電気柵」を設置しています。

今年は熊の被害が多く、人とりんご、そして園地を守るために電気柵の力を借りることにしました。市の関係者や業者の方々から説明を受け、初めての取り組みに試行錯誤しながら施工を進めています。

熊・鳥・虫・病気・高温障害・水害・台風など、りんご作りには自然と共存する中で、さまざまな外的要因が付きまといまいます。結局のところりんご作りとは「りんごをどれだけ守れるか」にかかっているのだと感じています。

園地に足を運ぶたびに、りんごの声に耳を傾け、その声に応えていきたいと思えます。

工藤



「葉取り」はりんごへの思いやり

未希ライフの葉取りをしています。早生品種である未希ライフは、十分に日光が当たらないと赤く色づかず、美味しくなりません。そのため、りんごに影をつくる葉を取り除く作業を行います。

ただし、この作業はとても神経を使います。日光が当たりすぎると果実が日焼けしてしまいますし、逆に光が不足すると色づきや味が良くなりません。さらに、葉は光合成をして果実に栄養を送る大切な役割もあるため、適度に残す必要があります。

一つひとつ大切に育てているりんごだからこそ、葉を取りすぎず、残しすぎず、色づきや味を確かめながら丁寧に作業を進め、収穫につなげていきたいと思えます。

対馬



ユニークなりんごたち

りんごの見直し摘果を行っています。その作業の中で、ときどきビックリするような形のりんごに出会います。動物のように見えたり、野菜にそっくりだったり——りんごなのにさまざまな姿をしていて、驚かされます。

ただ…変形果と呼ばれ異常があるりんごなのでだいたいは摘果します。

まだまだ暑さが厳しい中での作業ですがりんごから癒しをもらっているようで自然と笑顔になります。

佐藤

〒036-8124 青森県弘前市石川字石川64
TEL : 0172-49-7890
FAX : 0172-55-0257

メール : info@ooyufarm.comホームページ : <http://ooyufarm.com>

大湯ファーム